

新発田市 平成26年度 第3回定例記者会見

- 1 日 時 平成26年5月27日(火) 午前11時
- 2 場 所 3階応接室
- 3 内 容

しばたあやめまつりの開催について

第20回あやめ茶会

あやめサミット in 新発田

人口減少対策の取り組みについて

豚流行性下痢(PED)対策の実施について

福島からの避難者団体「ハピラボ」手作り雑貨展示販売会

川東地区小中学校合同二王子登山

田貝地区ホタルの灯りで夕暮れの散歩ツアー

住吉地区防災訓練

女性のための起業・創業支援セミナー&連続講座

行ってわくわく ほくほく買い物 ~しばた軽トラ市~

第2回婚活イベント「親御さんの婚活セミナー」

グリーンカーテンプロジェクト2014 in しばた 苗植式

藤塚浜海水浴場海開き安全祈願祭

新発田市藤塚浜大クリーン作戦

しばたん市場お中元セットの販売について

「市島邸の梅とりと月岡温泉を楽しむツアー」開催

第40回新発田市消防団ポンプ操法競技大会

第1回モンゴル相撲親善大会

市民コンサート2014

新発田あやめ寄席「桂米助」「三笑亭夢之助」落語会

第37回手工芸展・水墨画展

新発田城三階櫓・辰巳櫓復元10周年記念 三階櫓見学会参加者募集

あいさつ

いよいよ明日は、月岡温泉開湯百年祭が幕を開けます。天気予報では、少し暑くなるようですが、天候は大丈夫のようです。平日ではありますが、たかたかしさん、小林幸子さんと一緒に百年祭を盛り上げてくれます。「手湯の杜」や「プレミアムSAKE蔵」などの施設も新たに作らせて

いただいたので、多くの方に月岡温泉に足を運んでいただきたいと思います。

さて、新発田の花であるアヤメの季節を迎えます。前回も申し上げたとおり、市島邸のウメが咲き、紫雲寺のレンギョウ、それを追いかけるようにサクラが続き、最後に花のバトンリレーのアンカーを務めるのがアヤメです。その「しばたあやめまつり」を6月14日から30日まで五十公野公園で開催します。期間中の週末には多種多様なイベントも用意しています。

また、食の迎賓館としてリニューアルした旧県知事公舎、五十公野御茶屋では、「あやめ茶会」を6月21日・22日に開催することにしており、6月29日には、全国からアヤメに縁のある12の自治体が集まり、五十公野公園と月岡温泉を会場に、「あやめサミット in 新発田」を開催します。「美」と「歴史」をテーマに、アヤメにまつわる討論を行います。

300種60万本ものアヤメ・花菖蒲を、今年はしっかりと咲かせるよう準備をしてきたので、私自身もとても楽しみにしています。ぜひたくさんの方に見に来てもらいたいものです。

6月は、アヤメの時期であると同時に市議会の時期でもあります。6月定例会が6月5日から27日までの23日間の会期で開催されます。市民の代表である議会から、いろいろなご質問やご提言をいただくとと思うので、しっかりと議論してまちづくりに活かしていきたいと思えます。

それでは、今回も会見項目が多いようなので、早速、説明に入ります。

最初に、「人口減少対策の取り組み」について

これまでも新発田市の人口減少問題は喫緊の課題であると捉え、その対策として、「少子化対策」、「産業振興」、「教育の充実」を三つの柱に、その解決のための事業展開をしてきたところです。

こうした中、先般、新聞・テレビ等で報じられた「日本創成会議・人口減少問題検討分科会」による自治体消滅の可能性を示した推計は、人口減少に何としても歯止めをかけなければ、都市として生き残れないとしてきた私の主張を再認識させられる内容でした。改めて、当市の取り組みを更に推し進め、今できることをしっかりやらなければとの思えます。それと

同時に、これからの新発田と地域の未来を見据え、これから進むべき方向性を探る必要性もあると考えています。

その未来を考えるために、次の取り組みを手始めに行うことにしました。まず一つ目は、30歳代を中心とした若手職員を全庁から集め、各分野における様々な視点から、市として推進すべき方向性などを検討する「未来創造プロジェクトチーム」を庁内に設置します。もう一つは、市民や関係団体等と共に、新発田と地域の未来を考えたいとの思いから、その分野の専門家を招いた講演会を行うことにしました。現在、日本創成会議・人口減少問題検討分科会の座長でもある元総務大臣の増田寛也氏に講演を打診中で、この秋の開催に向けて計画を進めているところです。

こうした取り組みの中から、よいアイデアが出てくれば、実行に移してまいりたいと思っています。

次に「豚流行性下痢（PED）対策の実施」について

昨年10月に7年ぶりに日本国内で発生が確認された「豚流行性下痢（PED）」ですが、5月23日現在、全国38道県に広がり、新潟県内では29件の発生が確認されています。このPEDの発生予防及び蔓延防止には、農場や豚舎、運搬車輛の衛生管理の徹底が欠かせません。既に全国の畜産農家や養豚事業者でも、こうした対策をきちんとされているものと思います。

2万頭以上の豚が飼養されている本市では、さらに一步進めて、感染予防対策を講じることにしました。PED予防に効果があるとされるワクチン接種は、国が推奨していましたが、その接種費用は畜産農家や養豚事業者が全額負担しなければなりませんでした。本市では、このワクチン接種費用の一部（接種費用の2分の1）を補助することにし、畜産農家や養豚事業者の負担軽減を図ります。

PEDの発生状況としては、全国的にも、県内においても減少傾向にあります。これからも発生の恐れがあることから、新発田市独自の制度として、5月12日から事業実施したものです。既にワクチン接種済みの場合でも、4月1日まで対象を遡及させ支援してまいります。「新発田市強い農林水産業づくり支援事業」の市長特認を活用して対策を急ぎましたが、県内でもこうした取り組みは初めてではないかと思えます。

生産者が安心して豚を生産し、おいしい豚肉を引き続き消費者に提供で

きるようこれからも支援してまいります。なお、PEDは豚等の病気であり、人には感染しないことをご承知のとおりです。

次に「福島県からの避難者団体」の活動について

東日本大震災で福島県から当市に避難されている方々が、避難者同士や地域住民とのコミュニティを築くために活動団体を立ち上げ活躍している話題です。今回紹介するのは、子どもを持つ女性5人からなる「ハピラボ」という団体で、昨年度から編み物教室や陶芸体験、調理実習などの活動を行っており、市と共催でバーベキュー交流会なども実施してきました。福島県の補助事業である「地域の寺子屋推進事業」にも採択されたり、新発田市のイベントである軽トラ市や100円商店街にも積極的に参加するなど、精力的に活動しています。

この「ハピラボ」による「手作り雑貨の展示販売会」が、6月の土曜日、日曜日に市役所のすぐ近くにあるカールベクス古民家ギャラリーにおいて開催されます。今年度も、「ふるさとふくしま帰還支援事業」に採択され、今回の展示販売会のほか、藍染体験、チャリティーバザー、新発田風雑煮調理体験教室など、月2～3回の活動を予定しているそうです。

当市では、こうした補助事業の申請手続等に助言・指導したり、活動の情報発信や会場提供などの支援を行ってきました。今後も同様の支援はもちろんのこと、義援金を活用した支援方法も視野に入れ、当市に避難されている皆様の応援をしていきたいと思っています。

次に「地域の話題」をまとめて

はじめに、今年度学校統合した川東小学校の児童、そして川東中学校の生徒、その保護者や地域住民が参加して、地域の山である二王子岳に合同登山する話題です。6月28日（土）に実施されるこの合同登山は、川東地区自治会連合会体育部が主催するものです。子どもたちに地域への関心と愛着を育くむことを目的とするもので、約120人が一緒に1420メートルの頂上を目指して登山します。

次は、同じく川東地区の田貝集落で毎年実施しているホタルを楽しむイベントの話題です。たくさんのホタルが乱舞する田貝集落で、地域内外の

人たちにホテル鑑賞を通じて田貝地区の魅力を知ってもらおうと、6月28日（土）に散策ツアーを行います。イワナのつかみ取りや地域散策などを楽しみながら、ホテルが光を放つ夜を待つことができます。

次は、12の町内会からなる住吉地区自主防災会が主体となって実施する「住吉地区防災訓練」です。6月8日（日）に開催されるこの防災訓練は、昨年から実施しており、住吉小学校を会場に、震度6強の地震を想定して、要介護者の安否確認訓練や消火訓練、AED・心臓マッサージ体験訓練などを地域住民に体験してもらうものです。地域自らが行うこうした訓練は、いざという時に役立つもので、市や消防署も訓練に参加し、アドバイスをを行うことにしています。

こうした市民活動や地域活動を紹介していただくことで、更なる広がり期待できるので、ぜひ取材をお願いします。

この他にも、たくさん話題があります

「女性のための起業・創業支援セミナー&連続講座」は、先程の人口減少対策で重要と言われる女性が、自ら働く場を作り、新発田で暮らしていけるよう起業を促すもので、同時に女性の視点による新しい発想で、まちを活性化してもらうことも期待するものです。

また、今年度、3回目となる「しばた軽トラ市」は6月14日（土）に開催します。11月まで第2土曜日にメインストリート商店街で開催することにしており、市民の皆さんへの定着を図り、商店街への集客を期待しています。出店者の店舗経営に向けた第一歩としても期待するものです。

次は、昨年、独自の婚活イベントとして実施した「親御さんの婚活セミナー」ですが、好評により今年度も6月29日（日）に地域交流センターで開催します。なかなか結婚相手を見つけられない息子さん・娘さんのことが心配な親御さんにとっては、こうした活動も有効ではないかと思っています。

これから暑い夏を迎えますが、エコで暑さ対策を行う「グリーンカーテンプロジェクト」を今年も実施します。6月3日（火）には御免町幼稚園で、ゴーヤの苗植式なえうえしきを行います。こうした取り組みを通じて、意識が薄れ

てきている省エネ・節電などを再認識していただきたいと思っています。

夏と言えば、海を思い浮かべる方も多いと思いますが、新発田の海である藤塚浜で「海水浴場海開き安全祈願祭」を6月20日(金)に行います。地元保育園児や小学生による「たる御輿みこし」、「大漁太鼓たいりょうだいこ」が披露され、海水浴シーズンの幕開けを祝います。

その海水浴シーズンを前に、「藤塚浜大クリーン作戦」を6月15日(日)に実施します。例年、一般参加していただく市民の皆さんをはじめ、自衛隊新発田駐屯地、新発田市建設業協会、新発田青年会議所の皆さんにも参加いただき、250人もの方が海岸の清掃をしてもらっています。

もう一つ、夏の話題として、礼節を重んじる日本の夏の風物詩とも言える「お中元」ですが、観光協会のネットショップ「しばたん市場」においても、「お中元セット」を販売します。「新発田認証ブランドお試しセット」、「晩ごはんのおかずセット」など、品揃えを豊富に用意しています。新発田の特産品をお世話になった方への贈り物にさせていただきたいと思っています。

この他にも、「市島邸の梅とりと月岡温泉を楽しむツアー」、「消防団ポンプ操法競技大会」や、各種演奏会、展示会など、情報満載です。ぜひ、記事に取り上げていただき新発田市をPR願います。

以上で、私からの説明を終わります。

定例記者会見質疑応答概要

人口減少問題の取り組みについて

日報 プロジェクトチームは既に設置は終えたのか。

市長 今、設置に向けて職員の応募手続を進めているところである。職員を指名するのではなく、職員自ら積極的に手を挙げてもらうようにしている。その後チームを構成していく。メンバーが決まったら来年度の予算に間に合うように検討を進める。対策は時間との勝負でもあるので、出来るものからやっていきたいと思っている。

人口減少による消滅自治体の報道はショッキングな内容ではあるが、即、当市に当てはまるものではないと思っている。それでも、出来ることは、すぐに取り組んでいけるようにしていきたい。

産経 30歳代を中心とする15名程度のチームとするとのことであるが、他市等での同様の取り組みを参考にしたものなのか。

市長 他の事例を参考にしたものではない。昨年末に増田寛也氏が、雑誌でこの問題を取り上げており、全国市長会でも大変なことであるとの認識を持っていた。そうした状況を踏まえ、当市でも対策に取り組もうとしたものである。その中のひとつとして、若い職員に人口減少問題をしっかりと検討してもらうことにしたものである。

この他にも、人口減少問題において鍵を握るとされる女性に注目し、女性が活躍できるよう市が委託などで関係する事業所等に対して、一定の数の女性の採用を促す制度設計に取り組むよう指示したところである。今朝の新聞報道でも、一部上場企業が一定割合で女性を役員に登用していくとあったが、そうしたことをして行かなければ、人口減少問題にブレーキを掛けられないと思っている。あくまで、個々の経営権に関わる内容ではあるが、出来る限りのことをやるよう指示をさせてもらった。

朝日 日本創成会議の資料では、2040年に新発田市は8万人を割り込む

人口になるとの推計がされていたが、どのように感じているか。

市長 新発田市で政治に長く関わってきた経験から、人口が一時的に10万人を切ることはなるだろうとは思っているが、あらゆる手段、ツールを駆使して、再び10万人に戻すことは可能であると思っている。これまでも少子化による緩やかな人口減少は想定できていたので、対策をいろいろと講じてきたところであるが、今回の推計では、75歳以上の高齢者の人口も減少に転じ、ダブルで人口減少が進むと分析した点は驚きであった。東京への人口一極集中だけでなく、新潟県においては、新潟市もミニブラックホールのように人口が集まっていくことへの対策も考えていかなければならない。

こうした状況で、若い世代の職員がどうこの問題を捉え、どのようなアイデアを持っているのかを期待を込めてプロジェクトチームを立ち上げることにしたのである。

朝日 日本創成会議の資料では、19歳から39歳までの女性が半減するような推計を出しているが、その点はどのように感じているか。

市長 非常に難しい問題である。都市と地方の違いは、雇用の多様性であり、例えば都会に行った高学歴の女性が、地方の労働集約的な産業、企業で働くために帰って来てくれるか、雇用する側でそうした女性を支えていけるのかといった問題がある。しかし、今、新発田市にいる女性が子どもを産み育てる環境をつくる、子どもを産んでもすぐに再就職、社会復帰できる環境をつくることは可能であると思っている。

産業振興も当然するが、まずはこうした取り組みをやっていく。観光産業などは、雇用の多様性といった点では、地方として一番取り組みやすい業態である。観光はサービス産業であり、調理をする、接待・接遇をする、営業をするなど、多様な雇用の幅を持っていると言える。

こうした部分を活かしていければと思っている。新潟市もすぐ近くあるので、これを利用することもひとつの手である。新潟市や聖籠町などに雇用の多様性の部分を委ね、教育の充実などを図ることで、居住場所として新発田市を選んでもらう。子育ては新発田でと言うことが出来れば、日本創成会議の推計がそのまま新発田市に当てはまることはないと思っている。

市長選挙について

朝日 市長選まで、あと数カ月となり、出馬表明から2カ月が過ぎたが、市長1期目の評価と2期目への抱負を改めて聞きたい。

市長 先日、私を励ます会があった。後援会では、来られない方を見越して、集会会場の定員を超える1,100人の方々に声を掛けたが、そのほとんどの方々が応援に駆けつけてくれ、本当に驚いている。泉田知事をはじめ、国会議員、県議会議員の皆様にもお越しいただき、大いに励まされたところである。選挙戦は控えているものの、まだ6カ月間は、市長としてまちづくりの手を休める訳にはいかない。庁議の場においても、まちづくりをしっかりとやるので、職員もそのつもりで協力してもらいたいと言ったところである。

自分で自分を評価することは難しいが、市長就任時の宿題である「学校耐震化」、「し尿処理場建設」、「県立病院跡地整備」、「駅前周辺整備」、「新庁舎建設」の五つ、それも平成27年度末までの期限があった宿題を、市民の皆様のご協力をいただきながら、ひとつひとつ実現できるようにしてきた。ただし、新庁舎建設だけは資材調達の関係で1年の猶予を貰うことになったというようなことを、支持者の皆様にご話をさせてもらった。だからと言って、これで及第点を貰ったとかといった評価は自分では出来ない。

流行性下痢（PED）対策の実施について

産経 PED対策で2分の1補助を行うのは、県内でも初めてということで間違いないのか。

市長 そのとおり県内で初めて実施するものである。全国でも、まだそんなには実施していない取り組みであると思う。PEDが広がりを見せた段階で、まず農場等の消毒のための取り組みを行い、さらに発生が危惧されることから効果が見込まれるワクチン接種への補助を検討させたものである。今朝の新聞で、国がワクチン接種した自治体に交付金で支援する記事があったが、ようやく国も行動に移したような状況である。本来は、九州でPEDが発生した段階で国がしっかりと対策すべきものであるが、国の対策を待っている場合ではないと判断し、当市独自に対策を講じたものである。

- 日報 市内の養豚農家数はいくつなのか。また、事業費はいくらか。
- 市長 市内に12農家があり、その内の母豚を飼養する11農家が予防対象となる。ワクチン接種をする母豚が約1,000頭なので、計算上の事業費は120万円となる。
- 産経 5月23日現在で県内のPED発生件数が29件のようだが、新発田市での発生はあるのか。
- 市長 県では下越地方での発生件数だけを公表している。これによれば下越地方で7件の発生があるようだ。